

在宅医療・介護における 本人・家族のための多職種連携で

気をつけたい10ポイント

1 お互いを尊重し思いやりをもち、ていねいな対応を心がけましょう

(解説)

- ・職種により立場、制度、関連する法律、必要な情報が異なります。お互いの専門性や各職種の立場を、思いやりをもって理解し、ていねいな対応を心がけましょう。相手に失礼のない身だしなみも大切なエチケットです。
- ・利用者、患者さんに接する時もていねいな対応を心がけましょう。

2 お互いに日常的な情報交換を忘れずに、利用者の情報を共有しましょう

(解説)

ひとりの利用者に複数の事業所が関わっている場合、他の事業所がどのようにサービス提供しているかお薬手帳やノートなどで情報共有しましょう。『い』『ろ』『は』『に』『す』『めし』に着目して書くとわかりやすくなります。

『い』：移動 『は』：排泄 『す』：睡眠

『ろ』：ふろ 『に』：認知症 『めし』：食事

また、利用者の価値観や生き方・治療方針についても共有しましょう。

3 看取りの時は家族の揺れる気持ちを多職種で支えましょう

(解説)

在宅看取りが近づくと家族の気持ちは大きく揺れます。揺れる気持ちを多職種で理解し、情報共有しながら、利用者や家族を支えましょう。看取りの時期には特に気をつけて、密に情報共有を行いましょう。

4 専門用語は使わず、わかりやすい言葉を使いましょう

(解説)

医療職も介護職も、自分の業種以外の専門用語には慣れていません。専門用語を使わず、わかりやすく、ゆっくり、はっきり説明しましょう。

5 利用者の名前はフルネームで、自分の名前と所属をはっきり伝えましょう

6 どの程度急ぐ用件か考えて連絡しましょう

(解説)

それぞれ時間が限られた中で仕事をしています。急ぐ用件でなければ、ゆっくり対応出来るとゆとりができます。どの程度急ぐ用件か判断して、医師には「連携タイム」を活用するなどして連絡しましょう。電話の際は、「今お話できますか？」等確認すると良いでしょう。緊急時も含め担当者不在時の連絡体制は事業所ごとに整理しておきましょう。代理の職員が決定したり、連絡がつく体制を整えておきましょう。

7 医療機関への訪問の前にはアポイントメントをとりましょう

＜ケアマネ等＞

（解説）

- 病院には「つくば市内病院のケアマネ等専門職窓口一覧」・クリニック等の医療機関には「つくば連携タイム」を見て連絡を取りましょう。
- 病院などの医療機関ではアポイントメントのない訪問には、対応しにくい場合があります。

8 介護サービス事業所やかかりつけ医師にサービス担当者会議、退院前カンファレンスへの参加の声掛けをしましょう

＜ケアマネ、退院調整看護師、ソーシャルワーカー＞

（解説）

緊急でない場合の担当者会議はあらかじめ十分な日程調整を行い、出席ができない方に対しては事前に照会をするとともに、「退院前情報共有チェックリスト」を参考に準備しておきましょう。なお出席できなかった方への情報提供も行いましょう。退院日のメドを早めにケアマネジャーに知らせましょう。

9 書類は提出日を意識して、ていねいにわかりやすく書きましょう <医師>

（解説）

書類として、主治医意見書、訪問看護指示書、訪問薬剤指導指示書などがあります。病歴や服薬の状況があると参考になります。

10 緊急を要する症状や状態などをケアマネジャーや訪問看護師へ知らせておきましょう。急変時の連絡先や対応方法なども示しましょう。 <医師>